

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都リサーチパーク10号館	階数	地上7F、地下1F
建設地	京都市下京区中堂寺粟田町90、91、92	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	2,100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年5月7日
敷地面積	5,651.01 m <sup>2</sup>	作成者	(株)日建設計 荒川寛
建築面積	4,624.04 m <sup>2</sup>	確認日	2019年5月8日
延床面積	34,219.21 m <sup>2</sup>	確認者	(株)日建設計 岡田泰典



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 89% (164 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 89% (164 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 89% (164 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・京都リサーチパーク西地区の東西および南北動線の要として、地区内の回遊性、利便性、安全性の向上を図った。10号館入居者の利用に加え、地区内入居者のアメニティ、生活動線としても機能する「通り庭」を整備するとともに、商業の賑わいがにじみ出す活気あるエントランスホールに設えた。 ・建物中央のエコポイドによる自然換気、昼光利用を計画した。	<b>その他</b> ・1Fエントランスホールは、災害時自立エリアと位置づけ、災害時の一時避難場所としての機能、安全性を確保した。	
<b>Q1 室内環境</b> ・オフィスには開閉可能な窓を設け、自然換気を行い、ブラインドと応によって、昼光制御を行う。 ・個別制御性の高い冷暖同時型ガスマルチパッケージ空調機を全面的に採用した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・京都市内最大規模のフロア面積を生かし、北側は五条通に開放的な執務環境を計画した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・景観形成地区の認定を受けた。 ・植栽は、源氏物語にも登場する古来から市民に親しまれている在来種を選定し、生物多様性に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> ・外周のバルコニーや小庇による日射遮蔽効果により空調負荷低減を図った。 ・エコポイドにより自然エネルギーの有効利用を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・事務室のモジュール化やゆとりある水廻り計画によりフレキシビリティの高い計画とした。 ・節水型便器の採用や雨水利用設備の導入により、水資源の保護に配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・駐輪場、駐車場(荷捌き含む)を設置し、動線にも配慮した。 ・光害チェックリストに従って計画を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される